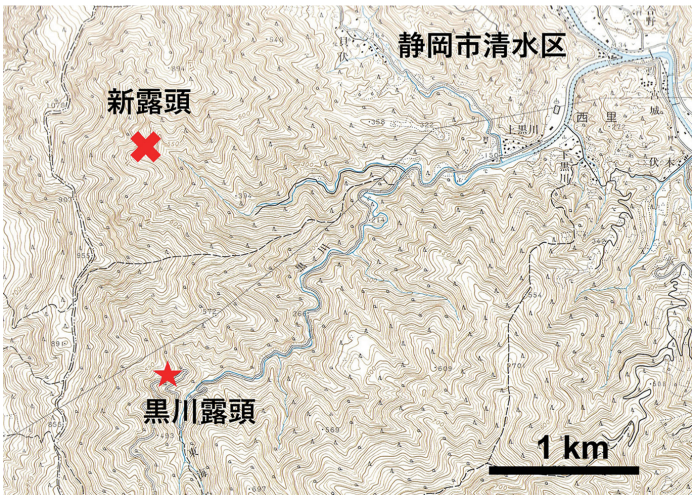
SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

C025
糸魚川ー静岡構造線の新露頭（静岡市清水区西里）（静岡県GEO DATA(17)：地学散歩(96)）

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2018-11-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 松本, 仁美, 狩野, 謙一, 塩坂, 邦雄
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026046

C025　糸魚川－静岡構造線の新露頭（静岡市清水区西里）



国土地理院　1：25,000　和田島

糸魚川－静岡構造線（糸静線）の露頭が静岡市清水区西里で発見された．断層の西側（写真左）は，前期～中期中新世（およそ 2000～1500 万年前）の竜爪層群の火山岩類で，東側（写真右）は，後期中新世（およそ 1000～500 万年前）の静岡層群の砂岩泥岩互層が露出する．断層面は高度差 20m 以上にわたって連続して露出している．緩やかに屈曲した断層面の走向は，露頭下部（南部）では N4°～6°E を，露頭上部（北部）では N26°～31°W を示し，全体的には，ほぼ南北走向，65°～85°の西傾斜である．断層面上には，南に 16°のすべり角を持つ明瞭な条線（スリッケンライン）が発達する．断層面の東側には，幅 30～40cm の未～半固結状態の断層ガウジが見られ，ガウジ内部の非対称組織から左横ずれ成分が卓越した断層である．さらに東側には幅 3~4m の固結した破砕帯が続き，静岡層群の砂岩泥岩互層に漸移する．県内の糸静線は，同じ清水区の黒川林道沿いに小規模な露頭が知られていた．今回の露頭は，そこから約 1.5km 北方に位置しており，地形の変化と黒川林道露頭との連続性から，この辺りの糸静線の走向は NS と推定される．新露頭の手前には地元のワサビ農家が所有するワサビ田があるので事前通行許可が必要である．

（松本仁美・狩野謙一・塩坂邦雄）